

# 夕陽會報



没後100年…何思う啄木像

第207号 総会特集号



◇巻頭言◇

## 新学部再考

会長 橋田 恭一  
(昭和39年卒)

北海道教育大学は六月十四日(木)、来年四月を目指していた函館校と岩見沢校への新学部設置を二〇一四年四月に延期すると発表した。

大学は当初、函館校を国際地域創造学部(仮称)に、岩見沢校を芸術・スポーツ文化学部(仮称)に再編する案の十三年度実施を目指していた。だが、文部科学省が六月五日、十二年・十七年までに実施する大学の改革案をまとめた「大学改革実行プラン」を発表したことで、北教大がこれまで進めてきた新学部構想案の見直しが必要となった。

記者会見した本間学長は「国の方針に従い、まず大学主体の改革の枠組みをまとめる必要がある。そのため、新学部設置を一年ずらさざるを得ない」と説明した。これまで夕陽会は、函館校を新学部に移行する案を認めつつも、新学部案では小学校・幼稚園・特別支援学校教員の免許取得が難しくなることから、様々な働きかけをしてきた。

夕陽会の要望活動の内容は、  
○教職を目指している学生及び高校生や小・中学生のニーズに合わせてこれまでも取得可能であった幼稚園・小学校と中学校・高等学校(国語・数学・社会・理科・外国語)・特別支援学校の教員免許状の取得を引き続き可能とすること。  
○教育学部の冠がはずれることから今後、函館校の附属四学校園(幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校)の存続が危惧される。新学部移行後も附属四学校園を継続して設置すること。

### 【取り組みの経緯】

●大学本部は、新学部を国際協働コース、

公共政策コース、地域環境科学コース、人間地域コミュニケーションコース(全て仮称)の四コースとし、当初、人間地域コミュニケーションコースに小学校免許などを盛り込んだ。しかし、文部科学省との折衝で教員養成を含めた人間地域コミュニケーションコースに指導が入り、文化コミュニケーションコースに変更した。

●再三再四にわたる夕陽会の要望に応えて、一月、本間学長は、電話で「どういう形であれ小学校の教員養成は残す」と明言した。

●三月二日、学長は函館校にて、国際地域創造学部と教育学部の二学部で文科省に申請する旨を伝えた。

●五月十七日、急遽、札幌にて橋田は学長と懇談。前日の文科省と学長の折衝の結果、教育学部を断念し新学部(三コース二三〇名)のみに変更して申請すると伝えられた。同窓会としては承諾しがたいこと。文部科学省の厚い壁を乗り越えるために国会議員の支援を要請するよう要望した。

●六月十四日、学長は新学部を二〇一四年に先送りすると発表した。

夕陽会は、これまで函館市工藤市長、北斗市高谷市長、道教委高橋教育長、渡島各市町教育長、国会議員、地方議員の皆様に「函館校に教員養成機能を残すために」協力・支援をお願いしてきた。今後は、これらの方々のお力添えに加えて、署名活動や教育フォーラムを行い、函館校が引き続き教育において、その役割を果たすことができるよう、多くの皆様の理解と協力を結集できるよう活動していきたい。

顧問・参与会

（平成二十四年六月八日（金）函館国際ホテル「鳳凰の間」において、第四回本部役員会に引き続いて、顧問・参与会が開催されました。

開会に先立ち、全員で「夕陽讃歌」を斉唱し、会が始まりました。

冒頭の挨拶で橋田会長は「昨年は十年ぶりに札幌で会を開催し、三・一一への義援金の対応など夕陽の絆を再認識することができた。今年は母校新学部構想への取組や会員数減少に伴う事業の再構築等課題の多い会となるが忌憚のない意見をいただきたい。」と述べました。

続いて、議長に青柳副会長を選考し議事が進行しました。

総会議案の審議では、幹事長および財政部長より、会員数減少に伴う、事業の再構築と会費の値下げが提案されました。また、会長より函館校の新学部構想にかかわって夕陽会のこれまでの取組の経緯と今後の取組の強化が提案されました。

全国支部長・幹事長会議

平成二十四年度の全国支部長会議は函館国際ホテルで六月十六日（土）午後一時三十分より二十二支部が参加して開かれた。

司会進行は橋山庶務部長、議長は絹野・田面木両副会長が務め議事が進められた。副会議では、議事の冒頭で、橋田会長より母校の新学部構想の経緯と現状について詳細な説明があり、今後とも各関係団体との強い連携を図りつつ取組を進めていくことが確認された。また平成二十四年度の運営方針・予算案の協議では、会費の値下げと事業の再構築が幹事長より提案された。

後半の各支部からの報告・交流では岩手支部の山口道明幹事長が被災した会員を代表して、義援金への感謝の言葉を述べた。その後「東日本大震災 巨大津波 その時 学校は」と題して、スライドによる大津波の被害の状況の説明や不幸にも命を落とした同窓の陸前高田教育委員会会のALITモンティー先生についてのお話に会場全体が心動かされた。

総会・大懇親会

会員の絆を一層強めながら

平成二十四年度  
夕陽会総会

（平成二十四年度の夕陽会総会は、六月十六日（土）、函館国際ホテルで開催された。審議に先立ち挨拶に立った橋田会長は、新聞報道などで話題となっていた函館校の学部再編問題について触れ、「母校である大学と道南の教育の振興のため、皆で知恵を絞り働きかけていきたい。」と力強く語った。新学部構想については、大変厳しい状況にあるができる限りのことをやっていくと話されたあと、「これからも会員の絆を強めながら、共に歩んでいきたい。」と締めくくった。

次に議長として、木村修治氏（青森西北五、八田敏史氏（胆振）、青木昌史氏（函館市）を選出し、役員選考委員・議事録署名人等を確認した後、議事および別室での役員選考に入った。

報告事項では、奥崎幹事長より平成二十三年度会務・事業報告が行われ、本部事務局各部の活動や一般会務・支部総会等の状況、会員の動向等について報告があった。続いて溝口財政部長より①通常会費会計②基本金会計③教育支援基金会計④義援金の四会計について一括して報告があり、森下監査からはすべて適正に処理されている旨の監査報告があった。

母校関係では、奥崎幹事長より函館校の現状及び支援と新学部構想に関する動向が報告された。さらに報道以降の情勢や同窓会としての働きかけと地元教育界の反応等一連の経過については、橋田会長より詳しい説明があり、すべての報告

事項は拍手をもって承認された。

協議事項については、はじめに奥崎幹事長より平成二十四年度の運営方針並びに推進事項の提案があった。本年度も「創造し行動する夕陽会」をモットーに次の六点を推進事項とし、特に重点項目（※印が重点事項）を明らかにして活動することが提案された。

①組織強化と運営の効率化

※支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携

※女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画

②人材の育成

※指導主事及び教頭等の管理職候補者の発掘と支援

③財政の確立と業務の効率化

※百周年を見据えた計画的な財政基盤の確立と整備

※「つなぎ」「集う」という視点からの諸業務、事業の見直しと再構築

④研究・研修の奨励と文化事業の推進

※「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成

⑤母校への支援と地域貢献

※母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用

※就職対策関係事業、教育採用試験対策関係事業への支援

⑥夕陽記念館（北方教育資料館）の整備活用

※夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存・展示の試行

さらに会費については長期展望と会員の負担を考慮し、五百円の値下げとし、細則四条（一）の改正が提案された。それを受け、溝口財政部長より平成二十四年度予算案が提案され、いずれも原

# ・大懇親会

於 函館国際ホテル



大津波の様子を説明する山口幹事長



# 平成24年度 夕陽会総会

平成24年6月16日(土)



## つながりと絆を深め 同窓意識を高めた 大懇親会

案通り承認された。役員改選では橋田会長が引き続き会長に選出され、また、次のように新役員が承認された。

- 会長 橋田 恭一(昭和三十九年卒)
- 副会長 繪面 和子(昭和三十九年卒)
- 副会長 絹野 重治(昭和四〇年卒)
- 副会長 杉本 征年(昭和四〇年卒)
- 副会長 天野 哲征(昭和四一年卒)
- 副会長 青柳 史匡(昭和四二年卒)
- 副会長 田面木茂樹(昭和四八年卒)
- 副会長 黒田 信彦(昭和五〇年卒)
- 副会長 小松 一保(昭和五〇年卒)
- 副会長 阿部 憲司(昭和五一年卒)
- 副会長 和高 敏明(昭和五三年卒)
- 副会長 藪 敬(昭和五三年卒)
- 監査 笹原 志郎(昭和三八年卒)
- 監査 森下 栄治(昭和三九年卒)
- 監査 近藤 健(昭和四一年卒)
- 幹事 奥崎 敏之(昭和六〇年卒)
- 幹事 榎山 聡(昭和六〇年卒)
- 幹事 福井 博志(昭和六〇年卒)
- 副幹事 平田新次郎(昭和六二年卒)

(昭和54年卒・柏野小教頭・金谷美也子氏)

函館国際ホテル天平の間は、四百八十六名の夕陽会員の熱気に包まれ、今まさに開会の時を迎えようとしていました。開会に先立ち、田面木茂樹副会長の先導によりご来賓の方々が入場し、会場には大きな拍手が鳴り響きました。今年は、函館市長工藤壽樹様をはじめ、衆議院議員逢坂誠二様、参議院議員横山信一様にもご来賓としての参加をいただきました。天野哲征副会長が開会を宣言、いよいよ本年度の大懇親会の宴が始まりました。まずは恒例の「夕陽讃歌」の斉唱です。本年度は函館市立戸倉中学校の杉山裕規先生(平成三年卒)が指揮を担当。参加者全員の母校に対する思いを込めた「夕陽讃歌」が会場いっばいに声高らかに響きわたりました。

会長挨拶で、橋田恭一会長は、総会に引き続き三期目二年間の会長に決まったことを報告したあと、「北海道教育大学函館校の新学期構想は、一年繰り延べとなったが、小休止の状態と考える。今後とも工藤函館市長さんをはじめ、国会議員の先生方のお力添えをいただき、良い方向に進展していくことを願っている。今宵は年一回の同窓の宴なので、結びつきを強める会にし、夢と希望を語り合いながら楽しい一時を過ごそう。」と抱負を語られました。

期待のお言葉を述べられました。次に挨拶に立った林秀樹北海道教育庁渡島教育局長からは、「本道では現在、生きる力の知の側面である確かな学力の向上が最重要課題になっている。子どもたちの将来をみつめ、夢と希望に満ち溢れた未来に向けて導く必要がある。そのためにも、教員の資質能力の向上に向けた取組が肝要である。今後も創造し行動する夕陽会として、本道教育に新たな風を巻き起こし、教育の充実と発展に寄与していただくことを願っています。」と期待のお言葉がありました。

最後に本年度より北海道教育大学副学長(函館校担当)に就任された星野立子氏が壇に立たれ、北海道教育大学函館校の「新学期構想」に対して夕陽会会長をはじめ、たくさんの方々に「ご尽力いただき、ありがとうございます。」と感謝を述べられました。そのあと「再来年函館校が百周年を迎える。その歴史と伝統の重さ、夕陽会のバックアップがあつてこそ、函館校であることを学生にも伝えていきたい。」と述べられ、函館校の新学期構想の進展を期待したいと抱負を語られました。

続いて、恒例の新入会員の紹介です。今年度参加された三番テーブルの九名の教職員と一名の民間企業会員が紹介されました。九名の教職員の中には、期限付採用の方もおり、本採用になりたいという強い決意が述べられました。今後ますます各界から多くの新会員が参加してくださることを期待したいと思います。

次に、田中健一渡島管内町村教育委員会連絡協議会教育長部会長が「木は根に、人は社会に支えられて育つ。私たちは夕陽会に支えられて育つ。橋田会長の



もと、みんなで夕陽会を盛り立てていこう。」と檄を飛ばされ、祝杯のご発声で祝宴が幕を開けました。今年も会場内は各卒業年次ごとの席で、互いに若き日の記憶をよみがえらせ、旧交を温め合いながら、青春時代に戻ったように、語り合う姿が見られ、夕陽会大懇親会ならではの熱気に満ち溢れる雰囲気になりました。

宴も佳境に入り、恒例のエールを杉山裕規先生(平成三年卒戸倉中)の打ち鳴らす太鼓に合わせて、登壇した中山央先生(平十二年卒戸倉中)が熱演、会場全体が大いに沸きかえりました。

いよいよ閉会が近づくと、トリを飾る寮歌の大合唱が始まりました。諸先輩方が背に「夕陽」の揃いの法被姿で登壇すると、会場の雰囲気はさらに盛り上がり、小林周次先生(昭和三十三年卒)の音頭で、母校に対する思いを込めた歌声が会場全体を揺らすように響き渡りました。余韻が覚めやらぬ中、乾杯の時間となり、山本真也函館市教育委員会教育長が、「いつも頼りになる、困ったときの夕陽会。今後とも人をつくり、地域をつくる夕陽会であって欲しい。」と乾杯の音頭を取り、宴はお開きとなりました。最後に阿部憲司副会長が開会を宣言し、繪面和子副会長の先導でご来賓の方々が退場され、本年度の夕陽会大懇親会も大盛会のうちに終了しました。

平成二十五年度は六月二十二日(土)に、同会場函館国際ホテルにおいて、夕陽会本部総会ならびに大懇親会を開催する予定です。万障お繰り合わせの上多くの会員諸氏がごぞって集い、同窓の輪をひろげようではありませんか。

平成二十四年度

# 夕陽会運営方針並びに推進事項

## 《運営方針》

「創造し行動する夕陽会」をモットーに、会員一人一人に活力と潤いをもたらす運営の充実と活動の活性化を図り、次の各事項の深化拡充に努める。

## 《推進事項》

### 1 組織強化と運営の効率化

会員相互の連携を重視し、各界会員の組織化と会運営の効率化を図る。

(1) 各界の会員動態の把握と広報活動の継続。

(2) 支部、ブロック、部会活動の活性化と本部との連携。(重点事項)

(3) 教職外の会員及び新卒会員の入会促進。

(4) ※女性会員及び若手会員の運営への積極的な参画。(重点事項)

(5) 夕陽会報207、208、209号の発行。

(6) 被災支部への支援。

(7) 人材の育成

(8) 人材の発掘と、会員の資質と地位の向上を図る。

(9) 会員である道・市町村議会議員、首長、教育行政管理職等との連携。

(10) 関係機関・団体に所属する会員との連携。

(11) 各支部の研修活動等の支援。

(12) 指導主事及び教頭等の学校管理職候補者の発掘と育成。(重点事項)

(13) 財政の効率的な運用と業務の見直し・効率化

(14) 同窓会活動の最も根幹となる機能である、同窓を「つながぎ」、力を合わせ「集う」という視点から諸事業の見直し・再構築を行い、財政の確立と効率的な運用に努める。

(15) 100周年を見据えた計画的な財政基盤の確立と整備。(重点事項)

(16) 「つながぎ」、「集う」という視点からの諸業務、諸事業の見直しと再構築。

(17) 財政業務の効率的処理及び財務管理システムの構築。

(18) 各支部と連携した諸会費納入の取組。

(19) 研究・研修、文化事業の奨励

(20) 会員による個人及び協働の研究等を奨励し、特に明日の夕陽を担う若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(21) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(22) ※「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。(重点事項)

(23) 会員による文化事業の奨励。

(24) 母校への支援と地域への貢献

(25) 母校の継続と発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

(26) ※母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用。(重点事項)

(27) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(28) 在学生（会員予定者）に対する同窓意識の啓発。

(29) 就職対策関係事業、教員採用試験対策関係事業への支援。(重点事項)

(30) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

## (重点事項)

(31) 財政業務の効率的処理及び財務管理システムの構築。

(32) 各支部と連携した諸会費納入の取組。

(33) 研究・研修、文化事業の奨励

(34) 会員による個人及び協働の研究等を奨励し、特に明日の夕陽を担う若手会員の研究・研修意欲の高揚を図る。

(35) 研究・研修助成並びに研究内容の紹介。

(36) ※「若手枠」の活用による夕陽会の明日を担う若手の育成。(重点事項)

(37) 会員による文化事業の奨励。

(38) 母校への支援と地域への貢献

(39) 母校の継続と発展を願い、当面する課題解決のための支援を行う。

(40) ※母校及び附属学校園に関する情報の収集と活用。(重点事項)

(41) 大学の地域連携・社会貢献への協力・支援。

(42) 在学生（会員予定者）に対する同窓意識の啓発。

(43) 就職対策関係事業、教員採用試験対策関係事業への支援。(重点事項)

(44) 学生のスポーツ・文化・芸術活動への支援。

(45) 夕陽記念館（北方教育資料館）の整備・活用

(46) 改修された夕陽記念館内への、各種記念資料等の収集と適切な保存、展示活用を努める。

(47) 会員の作品、記念資料等の収集と会報やWebページでの周知。

(48) ※夕陽記念館内外の環境整備、陳列品の整備、電子的保存・展示の試行。(重点事項)

(49) 夕陽記念館の教育活用、学生・地域住民への開放などの検討。

(50) 100周年記念事業に向けた諸資料の計画的収集・整理。

## 夕陽会本部 事務局業務分担

### 庶務部

榎山 聡(附属小副校長)

1 諸会議（含懇親会）の諸準備及び進行、記録

2 文書の收受、発送及び保管

3 会員の慶弔事務

4 その他、庶務に関する事

### 財政部

溝口 幸司(港小長)

1 通常会費の徴収、支出事務

2 基本金及び特別会計の徴収、支出事務

3 予算書、決算書の作成

4 前納会員に関する事務

5 その他、財政に関する事

### 組織部

福井 博志(附属幼稚園長)

1 支部組織の編成と組織強化対策

2 会員の動態調査（支部別、校種別会員名簿）

3 支部役員名簿等の作成、会員名簿の作成にかかわる資料の収集

4 その他、組織全般に関する事

### 情宣部

古川 邦彦(北昭和小長)

1 「夕陽会報」の発行

2 事務局報の発行

3 その他、情宣に関する事

web委員長  
鳴海 裕(弥生小長)

○ 夕陽会ホームページの作成とその管理

### 文化部

佐藤 洋子(千代田小長)

1 会員の文化活動に対する支援

2 文化事業（音楽会・美術展・書道展等）の企画、実施

3 その他、文化に関する事

### 研修部

林 敏雄(峠下小長)

1 会員の地位向上対策

2 会員の個人及び共同研究への助成

3 支部・ブロックにおける研修活動に対する支援

4 その他、研修に関する事

### 厚生部

鳴海 康司(砂原中長)

1 会員の親睦及び福利、厚生事業の企画、実施

2 記念資料及び会員の作品収集

3 夕陽記念館の整備、充実

4 その他、厚生に関する事

平成二十四年度 夕陽会本部役員名簿

[illegible]



平成二十四年度支部役員名簿

(札幌市)

長 栗田 俊一 昭53 札幌市 山鼻中長  
副 城崎 則幸 昭52 札幌市 手稲鉄北小長  
副 茂木 清貴 昭52 札幌市 藤野小長  
副 宇留 準 昭55 札幌市 北野台中長  
幹 遠藤 裕志 昭54 札幌市 大谷地東小長  
会 中島 啓子 昭54 札幌市 南小長

(石狩)

長 河野 元彦 昭52 北広島市 大曲中長  
副 谷川 修一 昭55 当別町 西当別小長  
副 浅野 季文 昭54 北広島市 西の里小長  
幹 小島 雅人 昭52 江別市 中央中長  
会 武田 雅淳 昭58 江別市 上江別小長  
会 小島 雅人 昭58 石狩市 花川小長

(後志)

長 内山 哲男 昭51 共和町 東陽小長  
副 長谷川 誠 昭53 余市町 東中長  
副 本間 勝美 昭53 岩内町 岩内第二中長  
副 榊井 孝 昭52 俱知安町 俱知安中長  
幹 渡邊 清 昭55 黒松内町 白井川小長  
会 丸岡 哲也 昭52 黒松内町 黒松内小長

(小樽市)

長 渡村 公則 昭54 桜町中長  
副 木村 和則 昭54 桜町中長  
副 三宅 孝俊 昭54 塩谷小長  
副 寺澤 真 昭55 花園小長  
副 小友 和法 昭56 奥沢小長  
幹 上泉 哲 昭58 桂岡小長  
副 柴田 眞公子 昭58 小樽市 張碓小長  
会 日下部 匡彦 昭53 小樽市 高島小長

(上川)

長 森 将人 昭57 旭川市 知新小頭  
副 近藤 初美 昭53 富良野市 樹海小長  
幹 清水 孝徳 昭61 士別市 多寄小頭  
会 佐藤 幸子 昭56 鷹栖町 鷹栖小論

(宗谷)

長 島田 勇 昭51 稚内市 稚内港小長  
副 宮田 茂 昭53 稚内市 潮見が丘小長  
副 長谷川 富夫 昭57 稚内市 兜沼小長  
幹 佐藤 佳弘 昭61 枝幸町 歌登中頭  
幹 三野 誠一 昭54 枝幸町 乙忠部小頭

(留萌)

長 秋葉 良之 平元 留萌市 沖見小頭  
副 高木 昌行 平2 増毛町 舎熊小頭  
幹 熊倉 一弘 平3 小平町 小平小頭  
会 中野 恵 平2 留萌市 東光小論

(檜山)

長 後藤 賢一 昭52 厚沢部町 厚沢部小長  
副 茶碗 谷稔 昭54 江差町 江差北小長  
幹 尾形 政之 昭52 厚沢部町 厚沢部中長  
会 松島 弘明 昭59 上ノ国町 上ノ国中長  
幹 塩崎 弘 昭59 上ノ国町 上ノ国中頭

(渡島)

長 市川 秀雄 昭50 七飯町 大中山小長  
副 鈴木 牧男 昭53 安部町 福島中長  
幹 佐藤 幸夫 昭53 八雲町 浜松小長  
副 高橋 伸夫 昭53 北雲町 落部小長  
会 小笠原 英緒 昭57 北斗市 萩野小頭

(函館市)

長 青木 昌史 昭53 戸倉中長  
副 三島 千春 昭54 函館市 鍛神小長  
副 永井 貴之 昭63 函館市 市教委教育指導課長  
幹 佐々木 理之 昭63 函館市 戸倉中頭

(空知)

長 山下 浩 昭50 藤川市 一已小長  
副 門前 史博 昭51 赤平市 茂原小長  
副 山崎 優 昭55 岩見沢市 北村中長  
幹 千葉 潤 昭53 栗山町 角田小長  
会 中島 淳 昭59 岩見沢市 幌向小頭  
会 佐藤 祈 平元 由仁町 三川小頭

(胆振連合)

長 高橋 達夫 昭51 伴 東小長  
副 油谷 論 昭52 伊達市 稀府小長  
副 八田 敏史 昭52 厚真町 上厚真小長  
幹 安宅 錦也 昭52 能 青葉小長  
会 井内 宏磨 昭57 登別市 若草小長  
会 柳瀬 智雄 平2 苫小牧市 竹浦中頭

(室蘭市)

長 入江 祐史 昭50 室蘭市 旭ヶ丘小長  
副 伊藤 敏伸 昭51 室蘭市 海陽小長  
副 八田 由紀子 昭52 室蘭市 武揚小長  
幹 中島 博勝 昭52 室蘭市 港北中長  
会 小林 俊文 昭62 室蘭市 港南中長  
会 小島 文 昭62 室蘭市 本室蘭中頭

(日高)

長 細川 清茂 昭51 新ひだか町 三石小長  
副 亀谷 弘 昭53 新ひだか町 高静小長  
幹 納谷 健二 昭52 浦河町 堺町小長  
会 松井 伸樹 昭57 平取町 平取小長  
会 中山 英明 昭61 新ひだか町 山手小頭

(帯広十勝)

長 千葉 正夫 昭51 幕別町 忠類小長  
副 河合 昇男 昭53 帯広市 つつじが丘小長  
幹 横山 徹弘 昭53 更別村 上更別小長  
会 中村 真也 昭59 音更町 下士幌小長  
幹 岩館 佳弘 昭55 音更町 上居辺小長

(釧路)

長 磯部 昇一 昭52 釧路市 仁々志別小長  
副 合田 晃子 昭52 釧路市 中央小長  
幹 鳴海 厚子 昭58 厚岸町 真龍中頭  
会 澤崎 望美 平22 白糠町 茶路小事務  
幹 今井 浩文 昭57 根室市 花咲小長  
幹 打川 真由美 昭62 別海町 昆布盛小頭  
会 田村 榮基 昭55 斜里町 開陽小頭  
会 網走連合 昭55 西春別小論

(網走連合)

長 田巻 司史 昭55 北見市 端野中長  
副 西村 榮基 昭56 斜里町 斜里中長  
幹 篠田 英 昭58 湧別町 湧別中長  
副 篠田 英 昭58 湧別町 湧別中長  
幹 竹村 博 昭58 湧別町 湧別中長

(高等学校)

長 黒田 信彦 昭50 札幌市 北海道札幌北高長  
副 佐藤 章道 昭53 置戸町 北海道置戸高長  
幹 小島 章道 昭53 置戸町 北海道置戸高長  
幹 柳田 真宏 昭54 森町 北海道森高論

(青森津軽)

長 白取 清彦 昭46 青森市 八幡林字熊谷41-2  
副 渡邊 和雄 昭51 青森市 長島小長  
副 木村 公司 昭56 青森市 松崎小論  
幹 工藤 浩 昭63 弘前市 県立弘前第二養護論  
会 湯田 秀樹 平元 青森市 県立弘前第一養護論  
会 山幸 博 平元 八戸市 県立八戸第一養護論

(青森西北五)

長 高橋 宏彰 昭59 大鰐町 蔵館小頭  
副 木村 修治 昭61 つがる市 市教委指導主事  
幹 澁谷 隆行 平4 板柳町 板柳南小論  
会 佐々木 康栄 平2 板柳町 秋田県鹿角市立十和田小論

(青森南部)

長 田名部 喜郎 昭53 八戸市 高館小長  
副 木村 功 昭54 八戸市 鮫小頭  
副 芦名 均 昭56 五戸町 蛇川小長  
幹 大浦 和典 昭58 八戸市 新井田小頭  
会 小川 俊也 昭59 八戸市 下長中頭  
会 小笠原 一男 昭54 八戸市 新井田小頭

(秋田)

長 菊池 信和 昭56 能代市 竹生小長  
副 黒沢 薫 昭57 秋田市 築山小頭  
幹 沼良 樹 平2 能代市 第二中論  
幹 近藤 誠輝 平元 秋田市 (秋田県教職員組合)

(岩手)

長 田面 茂樹 昭48 一関市 県南警務所教育相談員  
副 村上 政悟 昭51 紫波町 日詰小長  
副 金沢 勇夫 昭52 花巻中長  
幹 山口 道明 昭57 宮古市 山口5-8-2  
会 橋田 孝 平9 滝沢村 滝沢小論

(宮城)

長 武井 晃 昭31 松島町 磯崎字割汲4-6  
幹 嶋田 晋 昭44 利府町 加瀬字野中沢124-16  
副 高橋 紀彩子 昭52 長谷区 加計塚小長  
副 狩野 武雄 昭49 世田谷区 三軒茶屋小長  
幹 相川 哲也 昭55 大田区 昭和女子大学大学院教授  
東瀬布第一小長

## 就任ご挨拶



## 就任にあたり

副会長 小松 一保  
(昭和50年卒 函館市立八幡小学校長)

この度、函館市小学校長会長の就任に伴い、夕陽会副会長を仰せつかりました。微力ではございますが、橋田会長をはじめ役員の方々のご指導を賜りながら、夕陽会の一層の発展に向け、力を尽くしてまいりたいと存じます。

私は、教職の前半二十年ほどを函館市内で過ごし、その間、夕陽会の管理職の皆様はじめ諸先輩から多くのことをご指導・ご支援いただきましたが、率直に申しまして、安易に考えていたことは否めない事実であります。

その後、函館を離れて、道内修行の旅に出た際、「夕陽の小松」といった温か

い声をかけていただきましたことは、初めて土地で仕事をする心細さばかり募っていた私にとって、どれほど勇気を与えていただいたことか計り知れないものでした。改めて「夕陽会」の力強さを感じさせていただきました。

また、今日でも、業務を推進する上で、橋田会長様をはじめ夕陽会の諸先輩あるいは後輩の皆様方から、多くのご支援・ご協力を賜っております。

この度の就任を機に少しでもお役に立てるよう頑張つてまいりたいと思います。どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

## ふるさと、夕陽の里

副会長 阿部 憲司  
(昭和51年卒 函館市立深堀中学校長)

この度、函館市中学校長会会長就任に伴い、夕陽会副会長を仰せつかりました。微力ではありますが、橋田会長はじめ、先輩諸氏のご指導を仰ぎながら夕陽会発展のために精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。

私たちは、人生の様々な節目で「ふるさと」を意識することがあります。後志管内黒松内町に生まれ育った私にとつては、黒松内の山・川は、駆け回り遊んだ真正正銘のふるさとです。同じように、教育大学函館分校が、私にとつて第二のふるさとであり、イメージとしては、夕陽の里かな? とも思っています。そこには「かの山」も「かの川」も実際に

あるわけではありませんが、語らった研究室、やる気に燃えた実習室、汗だくになったグラウンド、図書館の空気、そして学生食堂の喧噪等々、沢山の「かの友」「かの師」と出合い、学んだ「忘れがたきふるさと」だったと感じています。さらに縁があり、私は、教育大学附属養護学校で教職生活のスタートを切る幸運に恵まれました。それらもあつて、夕陽会の諸先輩にはことさらお世話になり、育てられたことに深く感謝しています。今、教員養成課程の存続が危惧される局面を迎えています。ふるさと夕陽を糧として、地域に根を張り、がんばる後輩の誕生が続くことを願つてやみません。



## 就任にあたって

副会長 和高 敏明  
(昭和53年卒 北斗市立上磯小学校長)

このたび、渡島中学校長会会長の就任に伴い、夕陽会副会長という大任を仰せつかりました。微力ではありますが、橋田会長様はじめ、役員の皆様や諸先輩のご指導・ご助言をいただきましたながら、夕陽会の充実・発展のために精一杯努力して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は母校を卒業後、北檜山町立二俣小学校に新採用となりましたが、当時の国鉄・瀬棚線とバスを乗り継ぎ、両手に持てる限りの荷物を持って赴任しました。教師になれるという喜びとともに、初めての地で大変心細い気持ちでいっぱいでしたが、温かく迎えてくれたのは同窓の

先輩方でした。さっそく歓迎会を開いてくださったり、その後も様々な場面でお力添えをいただいたことは、生涯忘れることはできません。夕陽会のありがたさを身にしみて感じるとともに、私なりに先輩はもちろん同期の仲間や後輩とも同窓の絆を大切にしてきました。これからも大切な夕陽会です。

今こそ会員一人一人が「創造し行動する夕陽会」をモットーに、改めて建学の精神と母校が直面している困難な現状を共有し、同窓の絆を強固にするときです。私も、少しでもお役に立てるよう頑張りたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

## 就任にあたって

監査 近藤 健  
(昭和4年卒)

この度の総会において、監査という大任を仰せつかりました。微力ではございますが、会長はじめ諸先輩のご指導を頂きたいと考えしております。

思い起こせば、父(正) 叔父(元) 義理の叔父(桑山誠一)の学んだ、同じ学舎に昭和三十八年入学、バスケットボールに明け暮れた四年間でした。昭和四十一年卒業、以来三十八年間、現役での仕事にはあらゆる面でいつも夕陽会の皆様に育てていただきました。

渡島の小学校で六年、その後中学校三十二年間を無事退職まで務められたのも夕陽の仲間が有つてのことと感謝しております。

特に出場中学校で、文部科学省の週休二日制の研究に携わったおたりや管理職を目指した際には多くの方々に助けていただきました。

平成十五年に退職し現在に至っておりますが、いつも側で見守ってくれている夕陽の仲間がいることはとても心強く嬉しいことであります。

そこに今回のお話があり、今まで皆様から戴いたエネルギーを、お世話になった夕陽のために少しでもお役に立てる事が出来たらとお引き受けする事に致しました。

歴史と伝統のある夕陽会のさらなる発展と、これから後に続く後輩のため頑張る所存でございます。

# 会務報告



幹事長  
奥崎 敏之  
(昭和60年卒)

## 《二般会務》

3/5 本部会報206号を発行する。

14 卒業生15専攻代表会議を開催する。(函館)

15 函館校卒業式に絵面副会長が出席する。(函館)

4/2 北海道教育大学合同入学式に橋田会長が出席する。(札幌)

5/17 本間学長と橋田会長が懇談する。(札幌)

17 本間学長と橋田会長が懇談する。(札幌)

20 本間学長と橋田会長が懇談する。(函館)

25 夕陽教育フォーラムを開催する。(函館)

27 逢坂衆議院議員と橋田会長が懇談する。(函館)

28 近近近 工藤市長と橋田会長が懇談する。(函館)

6/1 第3回本部役員会を開催する。(函館)

4 星野副学長と橋田会長が懇談する。(函館)

8 第4回本部役員会、顧問参与会議を開催する。(函館)

9 逢坂衆議院議員と橋田会長、青柳副会長が懇談する。(函館)

10 横山参議院議員と繪面副会長、天野副会長が懇談する。(函館)

11 近近近 工藤市長と橋田会長が懇談する。(函館)

16 平成24年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。(函館)

部総会・懇親会を開催する。(函館)

7/7 教授対策講座「明日の教師養成塾」が開催される。(函館・8)

2/17 《支部総会・懇親会・同期会・個展等》函館市支部受賞祝賀会に橋田会長が出席する。(函館)

25 檜山支部総会・「先輩を送る会」に橋田会長が出席する。(江差)

4/14 函館市支部総会に橋田会長、奥崎幹事長が出席する。(函館)

14 空知支部総会に笹原監査が出席する。(岩見沢)

21 釧路支部総会に橋田会長が出席する。(釧路)

22 札幌市支部総会に橋田会長が出席する。(札幌)

28 八雲支会総会に檜山副幹事長が出席する。(八雲)

5/11 室蘭支部総会に奥崎幹事長が出席する。(室蘭)

12 渡島支部総会に橋田会長が出席する。(函館)

12 小樽市支部総会に檜山副幹事長が出席する。(小樽)

12 十勝帯広支部総会に奥崎幹事長が出席する。(帯広)

受章おめでとう  
ございます

＊瑞宝双光章

生内 一二三 氏  
(昭和29年卒)

札幌市清田区平岡公園東四の一の八

小笠原 胖 氏  
(昭和29年卒)

北斗市七重浜一の一の二六の一〇三

## 平成25年度 全国支部長会議・本部総会・懇親会

◆期 日 平成25年 6月22日 (土)  
◆会 場 函館国際ホテル  
(函館市大手町 5-10 ☎0138-23-5151)

- ・全国支部長会議 午後 1 時30分～午後 3 時30分
- ・総 会 午後 4 時～午後 5 時
- ・大 懇 親 会 午後 5 時30分～午後 8 時

12 檜山支部総会に平田副幹事長が出席する。(江差)

12 石狩支部総会に福井副幹事長が出席する。(札幌)

17 函館市支部歓迎会に奥崎幹事長が出席する。(函館)

19 上川支部総会に檜山副幹事長が出席する。(旭川)

19 後志支部総会に橋田会長が出席する。(倶知安)

21 昭和33年卒同期会に橋田会長が出席する。(函館)

23 鹿部支会総会に奥崎幹事長が出席する。(鹿部)

25 苫小牧支部総会に橋田会長が出席する。(苫小牧)

6/7 松前支会総会に橋田会長が出席する。(松前)

8 知内支会総会が開催される。(知内)

15 昭和46年卒同期会に橋田会長が出席する。(函館)

16 平成24年度全国支部長会議・本部総会・懇親会を開催する。(函館)

21 北斗支会総会に橋田会長が出席する。(北斗)

30 首都圏支部総会に橋田会長が出席する。(東京)

7/11 指導主事等会総会・懇親会に奥崎幹事長が出席する。(札幌)

## 第10回 夕陽会音楽祭のお知らせ

- 日 時 平成25年 1月26日(土) 13時30分開演
- 会 場 函館市芸術ホール
- 入 場 料 無 料 (整 理 券)
- プログラム 合唱・独唱・アンサンブル  
会員の指導する合唱や吹奏楽等を予定
- 事 務 局 中條由紀子(平成8年卒) 附属小学校勤務



# 地域に貢献する夕陽会



## 函館奉行所へフロアライトを寄贈

夕陽会函館市支部長 青木昌史 (昭和53年卒)

函館市支部では、碓幸信前支部長の時代より『地域貢献』と『民間同窓生への組織拡大』の二つを大きな目標に活動してきている。公共施設の利便性の向上に貢献することを目的とし、平成二十二年には箱館奉行所の開設にあたり、二台の車椅子の寄贈が行われた。

その前支部長の意志をしつかりと受け継ぎ、今年度も箱館奉行所へフロアライト五台を寄贈した。奉行所では、夕暮れ時や冬場に日が差し込まない箇所があり、その問題の解決の一つと言うことで高さ一メートル二十センチあるフロアライトを贈ることになった。フロアライトは和風のデザインとなっており強化和紙を使用し、奉行所にふさわしい上品な明かりを演出している。贈呈式は平成二十四年二月二十二日に奉行所内で行われ、私から山本真也教育長に目録を手渡した。教育長からは「毎年、本当にありがたい。今回もとても素晴らしいものをいただいた。この折りの感謝状は夕陽記念館に置かせていただく予定になっている。」

今回の寄贈にあたって同館の沼崎孝男館長や教育委員会生涯学習部岡崎次長には大変お世話になり改めてお礼を述べたい。館長からは『奉行所の雰囲気合ったライトで、天候に左右されることなく館内を明るくすることができ、そのほか映像シアターに常時一台置き、そのほかでも幅広い用途で使いたい』と感謝の言葉をいただいた。地域貢献の取組はスタートしたばかりであり、どのような

取組が可能なのかを様々な方々と相談しながら今後も進めて参りたい。

さて、『組織拡大』については市役所の同窓生を通して少しずつその輪を広げてきている。それに加え、昨年度は平成二十三年卒の教職以外の同窓生が八名も懇親会に参加してくれた。母校のキャリアアセンタリーに勤めている佐藤さんのお世話で各職場を訪問する中、母校の現実を見る思いがした。厳しい就職状況の中、多くの先輩達が地元企業の残り活躍している。母校は新学部構想もあり、更に大きく変わろうとしている。我が同窓会も母校の進むべき道を一緒に考えている時期をむかえているように感じる。函館市支部としても先輩諸氏が築きあげてきた伝統をしつかりと守り育てていくと同時に『不易と流行』を見据え、夕陽会の百周年に向けての足固めを、微力ではあるが、本部と連携しながら今後も全力で推進していきたい。



## 夕陽「未来の教師フォーラム」 —先輩から熱いアドバイス—



去る五月二十五日、函館校四号館特別教室において、夕陽「未来の教師フォーラム」を開催しました。

これは組織部が企画・運営を行います。函館校キャリアアセンタリーの札内征男氏（昭37年卒）と竹鼻洋文氏（昭49年卒）の御協力をいただき、今年で七年目となるものです。

今年も夕陽の先輩教員が教員採用試験を控えた現役学生に直接アドバイスを行いました。

最初に函館校の松田賢治氏（昭60年卒）が「今日的な教育課題」と題して講演を行い、その後、各学校種別に分かれての学習会でした。

小学校部会は、附属小学校に勤務する澤田仁志氏（平9年卒）と目黒範和氏（平9年卒）が担当し、榎山聡副幹事長（昭60年卒）もサポートに入りました。

中学校・高等学校部会は附属中学校の奥崎敏之幹事長（昭60年卒）が担当。幼稚園部会は附属幼稚園の可児直之氏（平13年卒）、養護教諭部会は附属幼稚園の本間裕子氏（平2年別科卒）が担当しました。

各グループ毎に模擬授業をはじめ、現場におけるノウハウを懇切丁寧に教授していきましたが、学生の真剣な眼差しに講師陣のアドバイスもヒートアップするものでした。

総勢六十名近い参加でしたが、参加し

た学生からは「受験参考書には載っていない事を学ぶことができた」「教育実習の時には聞けなかったレベルの高いアドバイスをもらった」などと御礼の声が多数聞かれました。

組織部としては、来年度以降もこの取組を継続し、現役学生への援助をしていきたいと考えています。また、既卒者には、毎年「明日の教師養成塾」と題して、教採二次試験対策の場を設けて支援体制を組んでおります。

（本年は七月七・八日の開催で、この会報が届く頃には終了していると思います）一人でも多くの学生が教職の道を歩んで欲しいと願っています。

（組織部長（副幹事長） 福井博志 昭60年卒）

### 【組織部からのお願い】

現在、平成24年会員名簿の編集作業中です。住所変更等についての情報はギリギリまで受け付けております。連絡は附属幼稚園の福井（0138-46-2237）までお願いします。



# 社会に活躍する同窓



## 働けるという喜び・感謝の心

ネットトヨタ函館美原店 東 堂 祥 平  
(平成23年卒)

大学を卒業し、あつという間に一年と三ヶ月ほどが経ちました。私は、現在ネットトヨタ函館美原店で営業職に就いております。早くも二年目となり、後輩もできたので新人という言葉に甘えず引き締まる思いです。

初めての一台目をご契約頂いた七夕の日の夕方。あの時の喜びは今でも忘れることはできません。

営業の世界に飛び込んだ理由は、幼少期から車が大好きでという理由もありますが、一番の理由は学生時代に経験したテレフォンアポインターでインターネット回線を販売するアルバイトを三年間経験したこと。相手の顔を見えない世界で、声や電話対応だけで商品を販売するという楽しさ、お客様から「ありがとうございます」「頼むね」「何度も電話は来てください」「東堂さん頑張ってるからあなたから契約するわよ」など、たくさんの有難いお言葉を頂きました。

しかし納得いかない部分が一つだけあったのです。それは、ご契約を頂いた後のフォローができなかったことです。お客様に会ってみたいと思うことが何度もありました。

就職活動を通し、お客様と顔と顔を合わせることができ、このアルバイトでの営業経験やスキルを生かしたいと思い車の販売というものを選択しました。売ったら売ったきりではなく、売ってからのアフターフォローが一番大切なのが車の営業マンです。

車の魅力や、性能の良さを売ることも重要ですが、この仕事に就いて感じたことは「自分を売る」ということです。「あの人は任せられる」と思っていただけのように日々活動しております。

飛び込み訪問で、与えられたテリトリーを一件一件、御挨拶をしてチラシと名刺を配る時に、見ず知らずの方から「御

苦労さま」「わざわざありがとうございます」「暑い中頑張ってるね」などのお言葉を頂きました。この一声をかけた時が何とも言えない感情が湧くのです。やつていて良かったと思える瞬間でもあります。

高いお金をお支払いしてご購入いただいたお車。お客さまにとっては大切な財産です。点検・修理、車検整備やタイヤ交換などにおいてお客様は大切なお金を

お支払いしております。お金を払って当たり前と考えるのではなく、数あるディーラーや整備工場の中から、ネットトヨタ函館を選んで御入庫頂いているの

です。一見、当たり前に感じることでも当たり前と思わずに、お金を頂いている以上、頭を下げて点検や車検などをお願いしております。そのお金で私のお給料を頂いていることも忘れてはなりません。

また、社会人となると「責任」という言葉が必須ですが、学生時代には何となくしかわからなかった「責任」という意味。ネットトヨタ函館という看板を背負っているのだということが身に染みて

わかりました。大きな看板を背負っている以上、多くの方に良いサービスを提供し、信頼を得ることができるよう努力しております。

お金を得ることの大変さ、お金の大切さ、働けることの喜び、時間の大切さ、挨拶の大切さ、笑顔の大切さなど、当たり前のことではありますが、社会人となり二年目になりましたが再認識できたことです。学生時代ではわかっていなかった

最後に、人に生かされているということ。感謝しなければいけないことがたくさんあります。それを忘れずに、これからも社会に對し、会社に對し貢献していきたいらと思ひます。今後とも夕陽会の皆様にはお世話になるかと思ひます。その時はご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひします。



## 社会人としての「慣れ」

㈱二トリ店舗運営部函館店 谷 村 俊 央  
(平成23年卒)

社会人一年目は、文字通り怒涛のように過ぎて行った。

現在、私は㈱二トリの社会人二年目として、お客様への対応から売場管理、作業進捗管理など店舗運営にかかわる業務全般を担っている。いや、何とか担えるようになった、というのが適切だろう。

そして、二年目に突入した。二年目といっても仕事を淡々とこなしていくことに変わりはない。むしろ、作業量は増えるだろう。しかしながら、この「淡々と」ができるようになるまでに数多くの苦労を重ねたのがこの一年だった。

それでは、「淡々と」ができるようになるために何が変わったのか。正直、個人の能力がたった一年間で成長したなどとは考えていない。一言で表現するならば、「慣れ」に尽きる。社会のやり方、

会社のやり方、上司のやり方、先輩社員とのやり方など、これらを見て学び、社員として適応できるようにすることがこの一年、この「慣れ」という言葉に集約されている。無知とは恐ろしいもので

あったと感じるとともに、それを払拭し、自身が自身のやり方で、自身の考えを持ち、動けるようになるためには、仕方のないコストだったと今では捉えている。

ここに至るまでに、私が何よりも重要視していたことが人間関係であった。一般的にブラックだと言われているような企業でさえ、人間関係が良ければ辞めることはないと考えている程だ。そんな中、配属となった部署では幸運にも、人に恵まれていた。個人では判断しきれないような案件であったり、自身が失敗を

しまった際に、「積極的な失敗はある意味成功のもとだよ」「これを機会に力が付いたな。」などと丁寧に教育していただいたことが大きかったと感じている。私は褒められて伸びるタイプのようなのだ。

一方で、私が社会人一年目を充実して過ごせたのはある書籍との出会いでもあった。それは、書籍の中で、仕事とは「四事」であると記されていたことに起因する。そこには以下のように記されていた。仕事とは上司から「仕入れる事」だと自覚することから始まり、上司から仕入れた仕事を進めていく中で、「本当にこれでいいのか」「もっとこうしたいほうがいいのではないか」と思うようになる。

これが第一の「思事」である。第二が「今度はこうしよう。私はこうしたい」という志が出てくるという意味での「志事」。そして、やがて自分から始めるようになり、「始事」となり、それが最終的には会社の資源になり、「資事」となる。この四つの「四事」のサイクルを回していきけるのがプロだということが記されていた。この書籍をきっかけに、今現在、私自身はこの第二段階から第三段階に差し掛かっているように感じている。

ただかか社会人として一年しか経験のない私にとって「慣れ」ということと人間関係の構築、この二つが私の社会人一年目の成果と言えるのかもしれない。二年目は、可能な限り、第四段階の「資事」に繋げられるような成果を出せるように励んでいきたい。

最後に、夕陽会の皆様には、このような執筆をさせていただける機会をいただき感謝申し上げます。また、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。





## 学生時代を振り返って

函館新聞社 平尾 美陽子  
(平成23年卒)

大学を卒業し、社会人の仲間入りをし、一年四ヶ月。現在は函館新聞社で取材記者として情報収集を行い、記事を書いている。担当は幼稚園から大学、一般人を対象とした社会人学級などの教育全般。ただ事件や事故など突発的なニュースが発生した場合や選挙の時期など、状況に応じて臨機応変に対応することを求められる。「忙しい仕事だね」と周囲からよく言われるが、取材先で色々な話を見聞きするたびに新しい発見や学びがあり毎日が楽しい。教育関係者をはじめ様々な年代の住民と接することで、記者として歩んでいく上での大きなことを教えられ、充実した日々を送っている。

「多くの人と出会うコミュニケーションを図りたい」とこの仕事を選んだが、学生時代は福祉や障害児に関わる仕事を指していた。そもそも北海道教育大学函館校に進学した理由は将来の就職先を見据え、社会福祉士などの資格取得や地域・まちづくりをテーマとした特色ある授業に魅力を感じたからだ。今振り返ると、学童保育や視覚障害の子どもと公園で遊ぶボランティア活動と、子どもに関わる活動が多かった。中でも、知的障害児らを対象に開く「サマースクール」は、活動に関わる様々な人の考え方や子どもへの接し方など障害について深く考えさせられた。それと同時に仲間と協力し合い一つのものを創り上げる楽しさや喜び、達成感などを味わい、サマースクールでの経験はかけがえのない財産となった。また、寮生活や野外劇などの地域イベントへの参加、友人との旅行など学生時代でしか味わえない貴重な体験を積んだ。そうした体験が「幅広い年代の人と交流

### 夕陽会ホームページの利用について

夕陽会ホームページはweb委員会により、刷新されてから4年が経過しました。現在まで、約23,000人の方からアクセスがありました。母校や同窓会の活動の様子、各支部の現在など最新の情報を夕陽会員の皆様に提供すべく、更新作業に努力しております。

#### 夕陽会ホームページ の主な情報

会長挨拶、名称由来、教育精神、夕陽記念館、夕陽会の歩み  
会員数、組織、規約、会旗、夕陽讃歌経過  
母校90周年記念式典、支部・本部掲示板  
本部・支部・支会だより、同期会だより、会報紹介、本部会報  
渡島支部会報、函館市支部会報、歌のアルバム「讃歌、校歌、寮歌他」  
母校の活躍、母校の今日、母校の歩み

映像あり、音楽ありとこれまで以上に豊富なコンテンツと母校への思いが深まる工夫が加えられています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

また、個人情報保護法の完全施行にともない、法令の趣旨を遵守し、広報活動の健全性を保つよう努めています。会員の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

<http://www.sekiyou2005.sakura.ne.jp/>

情宣部web委員会委員長 鳴海 裕 (昭和54年卒)



前納会費納入会員名簿追加分

大森武治	昭49	鎌田芳三	昭49
小林英治	昭49	藤井良江	昭49
黒田雅博	昭49	藤井良江	昭49
花田雅博	昭49	熊谷光夫	昭49
長谷川雄	昭50	碓氷洋	昭49
高瀬輝彦	昭49	伊勢幸一	昭49
大岡裕彦	昭49	阿部太一	昭49
前田政雄	昭49	函館	昭49
大澤照雄	昭49	函館	昭49

夕陽会員計報

藤田 正吉氏	昭9	齋藤 正之氏	昭14
北斗市久根別5の13の1	23・9・9	函館市富岡町2の15の8	24・5・5
笠原 利秋氏(昭20和)	23・11・21	松澤 成輝氏 昭34	24・5・17
札幌市南区石山東7の1の1の217	23・11・24	余市町栄町414の84	24・5・19
川畑敬三郎氏(昭24和)	23・11・24	富樫 毅氏 昭31	24・5・19
恵庭市北柏木町1の307の24	23・11・24	函館市神山3の55の14	24・5・19
岩山 貞夫氏 昭23	24・2・27	佐藤 茂樹氏 昭59	24・5・24
函館市亀田本町26の58	24・2・27	苦小牧市日の出町2の1の29の5	24・5・24
太田 有氏 昭25	24・2・27	佐々木哲夫氏 昭35	24・5・25
札幌市北区新琴似3の2の16の15	24・2・27	苦小牧市ときわ町4の15の6	24・5・25
能登別別昭氏 昭29	24・3・3	紺野(小倉)則子氏 昭56	24・6・13
函館市富岡町3の23の18の301	24・3・3	七飯町大川5の6の6	24・6・13
佐藤寿一郎氏 昭28	24・3・5	(平成二十四年六月二十五日現在)	
札幌市北区新琴似7の11の4の7	24・3・5		
秋葉 元平氏 昭32	24・3・7		
函館市松陰町3の13	24・3・7		
大野 重賢氏 昭25	24・3・19		
函館市富岡町1の21の3	24・3・19		
竹中 勝美氏 昭25	24・3・19		
函館市本通1の3の7	24・3・19		
鋤柄久美子氏 昭56	24・3・21		
函館市深堀町25の16	24・3・21		
鶴喰 未治氏 昭30	24・4・3		
函館市亀田町5の27	24・4・3		
佐藤 昌久氏 昭28	24・4・18		
北斗市向野1の25の8	24・4・18		
山下 尾優氏 昭30	24・4・25		
北斗市追分4の7の3	24・4・25		

お詫びと訂正

夕陽会報第206号「栄誉に輝く同窓」の浅利政俊氏の文章の中で、ドイツ語のスペルが一部誤っていましたので、お詫びして訂正させていただきます。

- ① Das GöttLichsh (誤)  
↓  
Das GöttLiche (正)
- ② nilfreich (誤)  
↓  
hilfreich (正)

前納会費制度

利用のお勧め

夕陽会本部通常会費の納入には、前納会費制度があります。ご退職された方は是非、この制度をご利用くださるようお願いいたします。

前納会費納入会員は、会員名簿に納入者の○印を付して終身会員として、次のような特典が受けられます。

①記念品(人民蕃殖の白扇)の贈呈  
その他不定期発行の記念品等の贈呈

②夕陽会報(年三回発行)と会員名簿(隔年発行)の本人への贈呈

③前納会員への加入切り替えを会報に通知掲載その他慶弔規定の適用  
前納会費の額は、卒業年次により次の四段階になっております。

- ①大正年代の卒業生 五千円
- ②昭和年代の卒業生のうち昭和五十年までの退職者 一万円
- ③同じく昭和五十一年以降の退職者 二万円
- ④平成元年以降の退職者 三万円

ご希望の方は、本部(附属小学校内財政部担当)へご一報ください。振替用紙を送付いたしますので、簡単に手続きが済みます。

なお、函館市支部と渡島支部でも支部終身会員制度をとり、その推進・拡充を図っております。両支部とも終身会費は一万円であり、それぞれ特典があります。

編集後記

◆会報第二〇七号をお届けいたします。今回も、皆様から多くの玉稿や貴重な写真等をお寄せいただきました。この場を借りて心よりお礼申し上げます。

◆今号の表紙は、今年没後百年を迎えた函館ゆかりの歌人石川啄木にちなみ、大森浜・啄木小公園の啄木像を函館山を背景にして撮影してみました。初夏の早朝の爽やかさとハマナスの花にもご注目ください。

◆思いに耽る啄木像。この街を見つめながらいったい何を思っているのでしょうか。今もし啄木が生きていたら、函館の街を見て何を感ずるのでしょうか。想像して見ると何だか不思議な気分になります。啄木の勤務した弥生小学校も今年新校舎となりました。百年の時を越え、今年には啄木にかかわる様々なイベントも予定されています。

◆母校、函館校の新学期構想は、来年度へ結論が持ち越しとなりましたが、夕陽の同窓の熱い思いを結集して、これからも、母校の発展のために力を合わせることでできればと思います。

◆あらゆるものが値上げとなるのが常識のご時世ですが、夕陽会費は五百円の値下げとなりました。事業の再構築を行いながら、今後も同窓の絆をしつかりつないでいきたいと思います。

◆ぜひ掲載してほしい情報・取材してほしい題材等、どしどし本部事務局や情宣部にお寄せください。お待ちしております。(情宣部長 古川 邦彦 記 昭56卒)

本部事務局へのご連絡などは、次の所へお願いいたします。

041 0806 函館市美原3丁目48番6号

北海道教育大学附属函館小学校内

夕陽会本部事務局

電話番号(01338) 46-2235

夕陽会専用(01338) 34-5520

FAX番号(01338) 47-7376

題字 文化勲章受章者 金子賢蔵(鷗亭)氏(昭4卒)